

消費者動向調査 No.107

テーマ「冬のボーナス使いみち調査」

調査時期 平成 22 年 10 月

調査対象 福岡県内のサラリーマン家庭の主婦 500 人
(うち回答者 480 人、回答率 96.0%)

回答者区分

A.年代

	%
20代	8.5
30代	22.7
40代	27.7
50代	31.0
60代	10.0

B.あなたのご家庭で

ボーナスがあるのは

	%
夫だけ	46.3
妻だけ	16.4
両方	37.3

当調査は情報提供を目的として作成されたものであり、その正確性・確実性を保証するものではありません。

西日本シティ銀行
NCBリサーチ&コンサルティング

[調査結果本文]

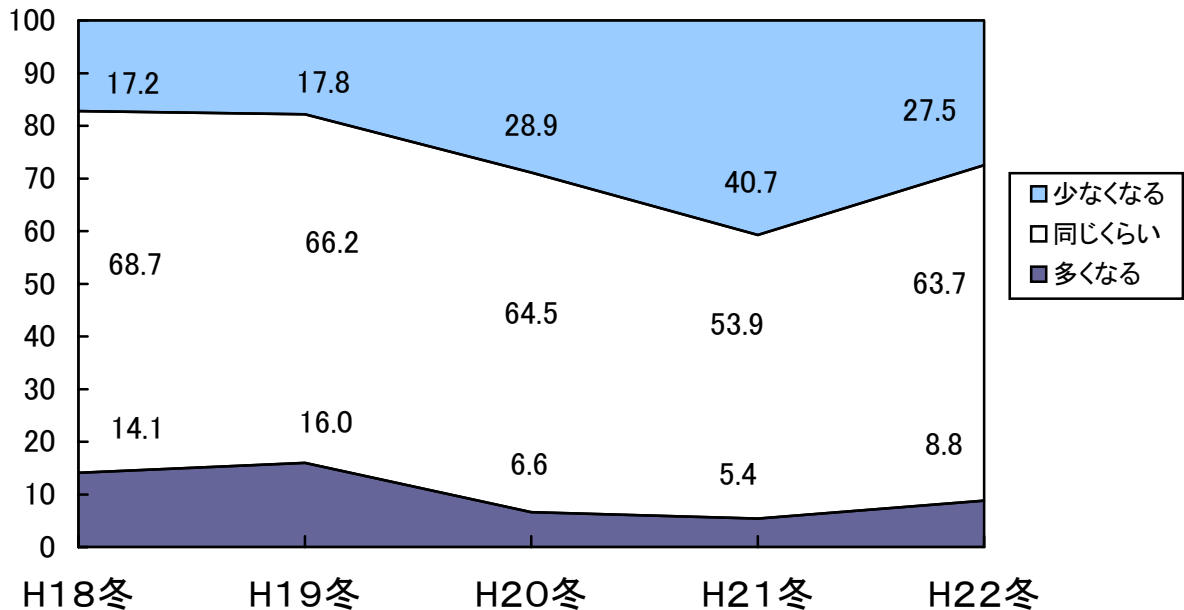
内閣府発表の11月の月例経済報告によると、「景気は、このところ足踏み状態となっている。また、失業率が高水準にあるなど厳しい状況にある。」と示しています。また、物価については「緩やかなデフレ状況にある」としています。今後、エコカー補助金の終了や家電エコポイントの半減により消費のみならず生産活動への反動も心配されています。加えて世界経済の減速や長引く円高の影響もあって輸出や生産の停滞が企業収益を圧迫し、設備投資や雇用、賃金を下押しするリスクも懸念されています。

このような中、消費者はこの冬のボーナス受給額をどのように予想し、どのように消費しようと考えているのでしょうか。また、冬のボーナスの使いみちについて、これまでと違った傾向は表れつつあるのでしょうか。ボーナス受給を間近にひかえ、福岡県在住の主婦を対象に冬のボーナスについての消費動向をたずねました。

今年の冬のボーナス、昨年の冬と比較して「多くなる」は 3.4 ポイント増加、「少なくなる」は 13.2 ポイント減少。

冬のボーナスが昨年より「多くなる」は3.4ポイント増加し8.8%、「少なくなる」と予想する割合は13.2ポイント減少し27.5%。1年前の冬よりも、ボーナスが「少なくなる」と予想する割合は大幅に減少し、2年前のリーマンショック直後の水準に戻った。

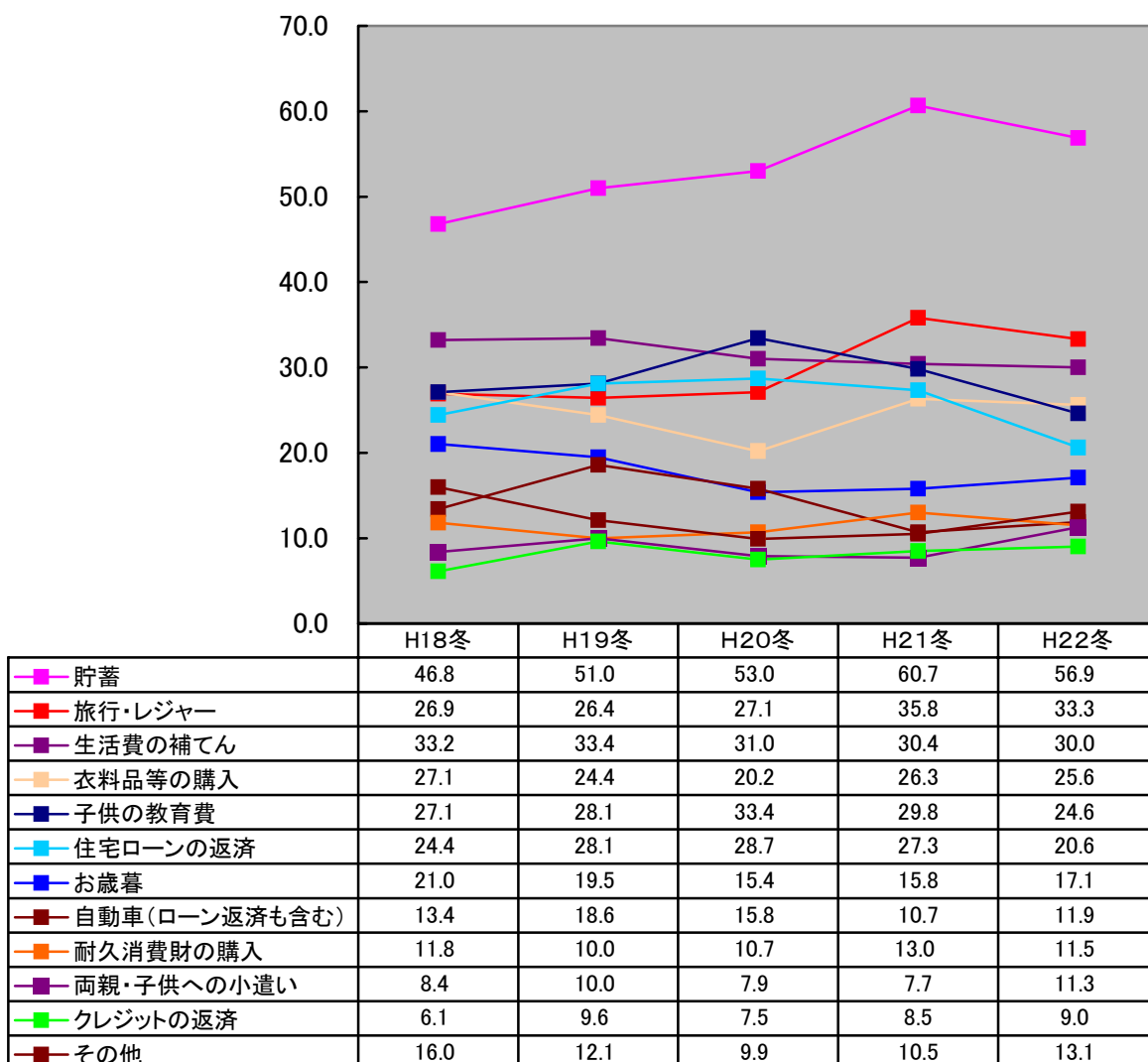
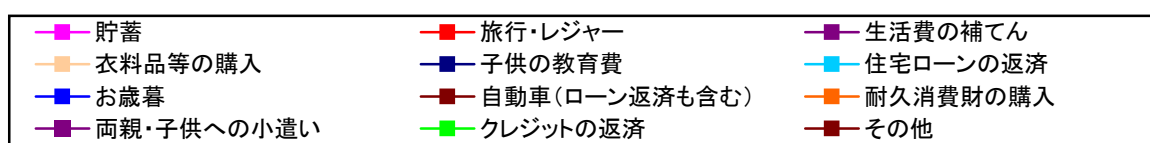
[グラフ1：冬のボーナスは昨年に比べどうなると予想していますか]（単位：%）



◆冬のボーナスの使いみち予定、1位は「貯蓄」で56.9%。2位は「旅行・レジャー」で33.3%。

冬のボ - ナスの支出予定1位は「貯蓄」で56.9%。これは前年冬の60.7%より3.8ポイント減少したが依然として高い水準。2位は「旅行・レジャー」の33.3%、3位は「生活費の補てん」の30.0%で前年と同順位。

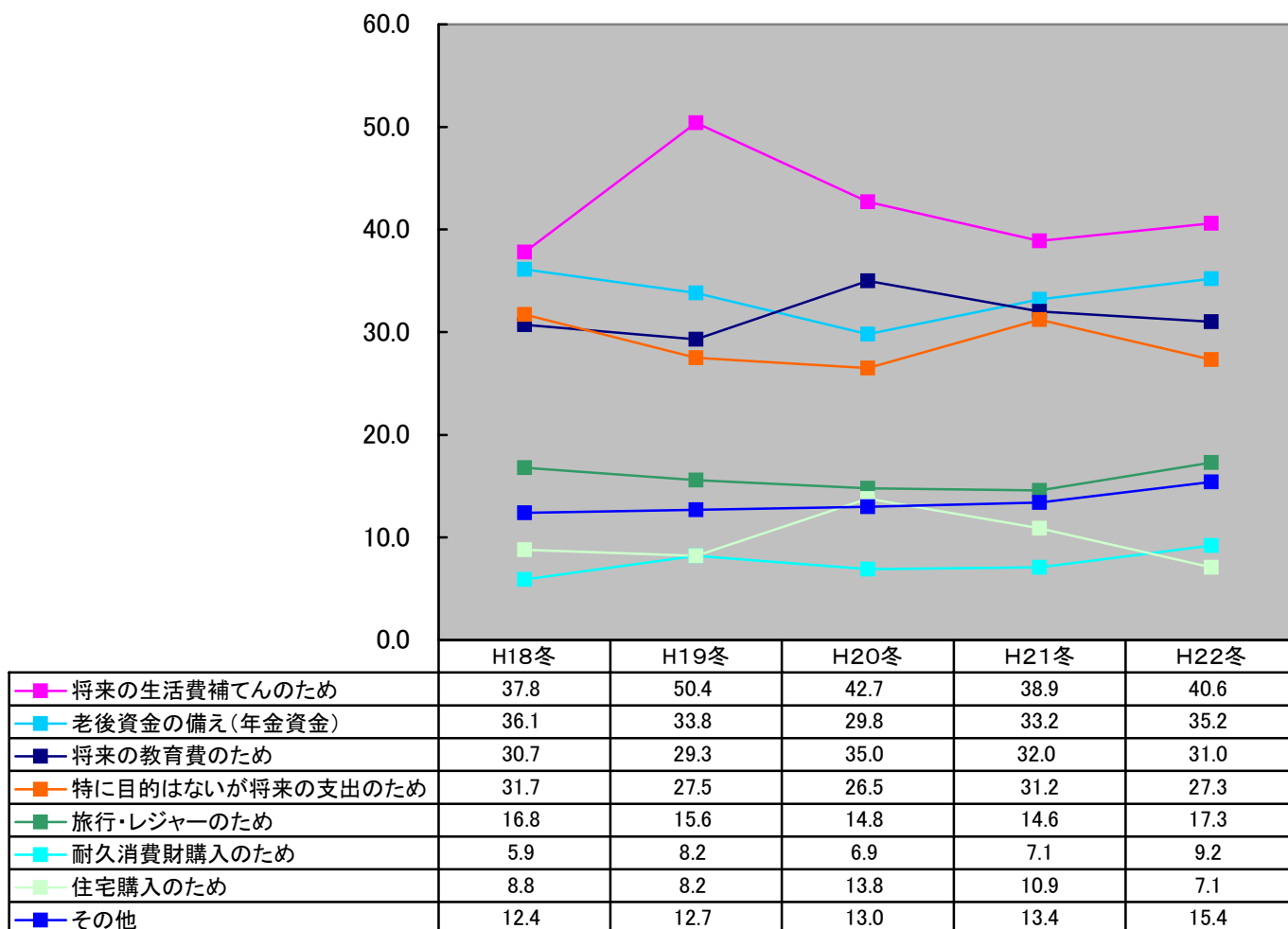
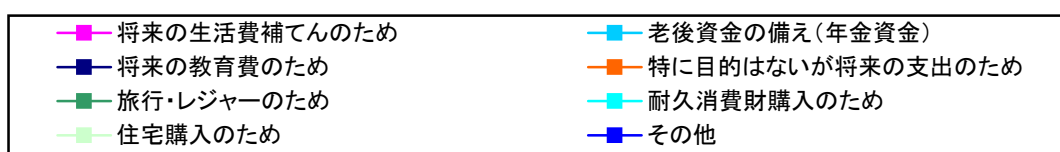
[グラフ2：冬のボーナスは何に使う予定ですか（3つまで）] （単位：％）



◆ボーナスを貯蓄する目的、1位は「将来の生活費補てんのため」で40.6%。2位は「老後資金の備え」で35.2%。

冬のボーナスを貯蓄する目的の1位は、「将来の生活費補てんのため」が昨年の冬に比べ1.7ポイント増加し40.6%でトップ。次いで「老後資金の備え」が2.0ポイント増加の35.2%と、経済の先行きや雇用に対する不安からか、引続き将来への備えが上位を占める。

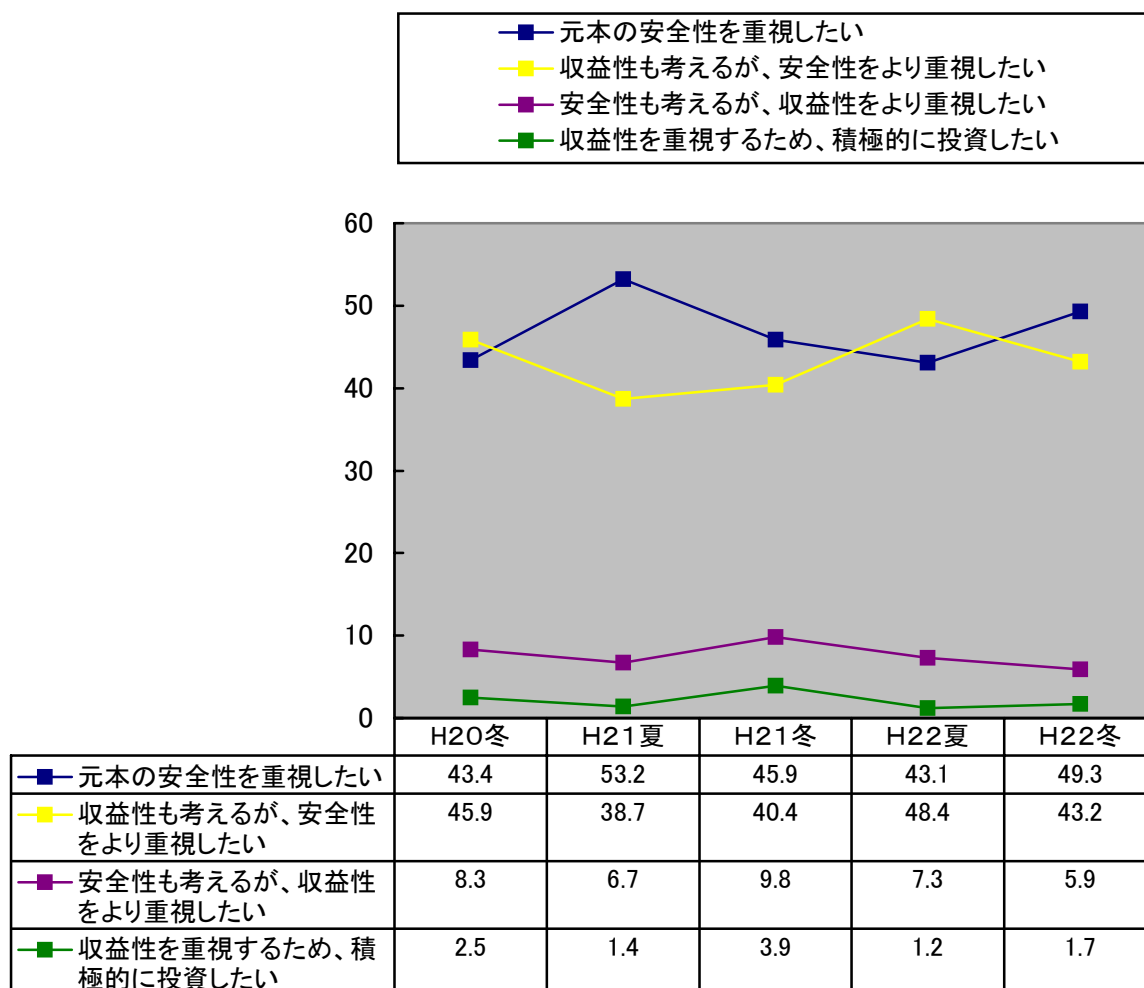
[グラフ3：将来の何のために冬のボーナスを貯蓄しますか（2つまで）]（単位：%）



◆冬のボーナスを貯蓄する場合の考えは、「元本の安全性を重視したい」が49.3%で1位。

「元本の安全性を重視したい」がH22年夏から6.2ポイント増加の49.3%で2位から1位に。
 「収益性も考えるが安全性をより重視したい」がH22年夏から5.2ポイント減少して43.2%。
 約9割以上が安全性を重視している。

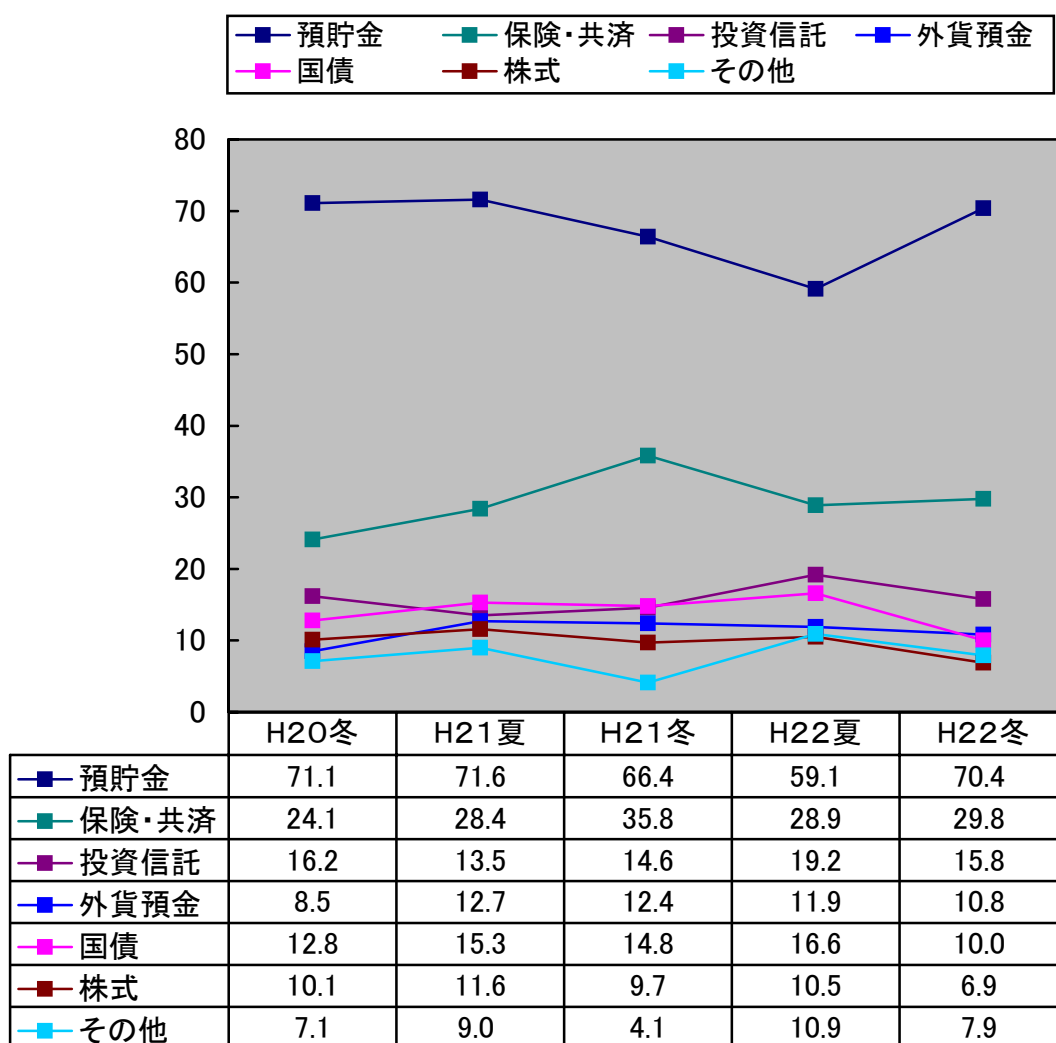
[グラフ4：冬のボーナスを貯蓄する場合、あなたの考えに近いのは]（単位：％）



◆関心がある金融商品、1位は「預貯金」で今夏より 11.3 ポイント増加し 70.4%。

現在関心がある金融商品は「預貯金」が70.4%で1位。2位は「保険・共済」で29.8%。「国債」は金利の低下傾向からか、今夏より6.6ポイント減少。低迷が続く「株式」は今夏より3.6ポイント減少の6.9%と「株式」離れの傾向が継続。増加傾向にあった「投資信託」が今夏より3.4ポイント減少して15.8%とリスク商品に対しては慎重なスタンスのようである。

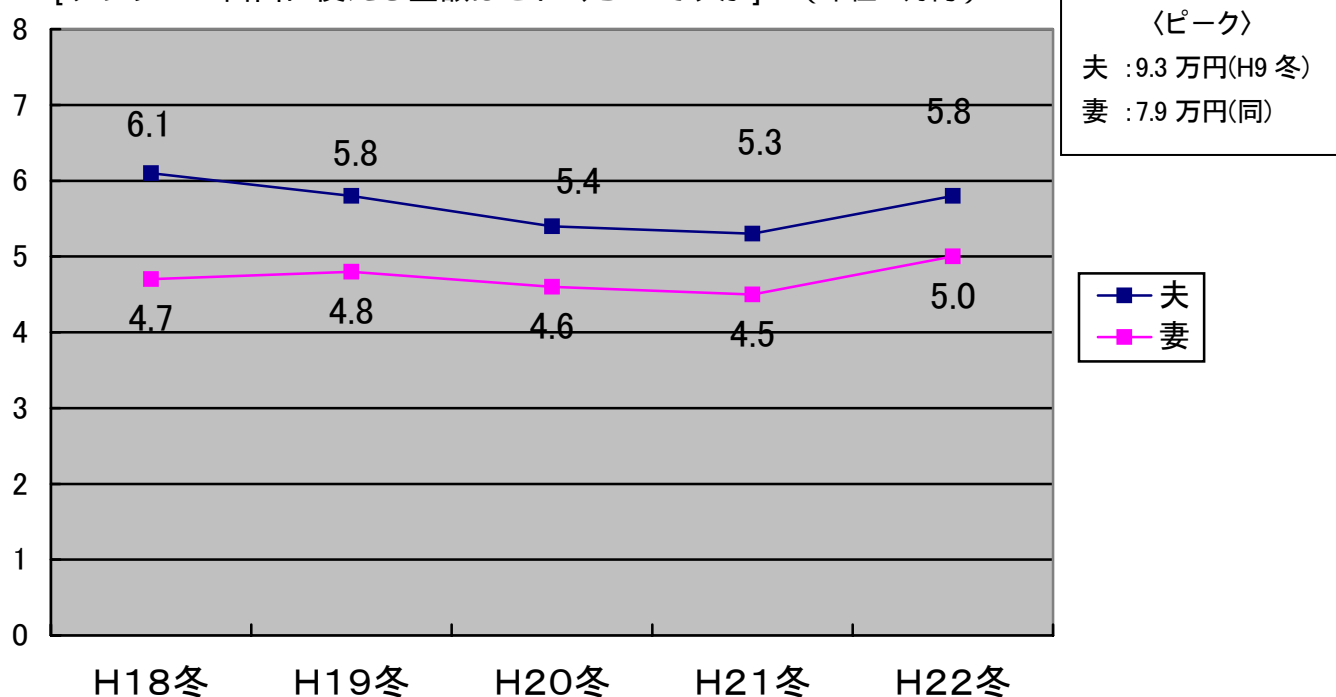
[グラフ5：どのような金融商品に関心がありますか(いくつでも)] (単位：%)



◆冬のボーナス、自由に使える金額は、今年の冬に比べて夫・妻ともに 5 千円アップ。

冬のボーナス、夫が自由に使える金額は平均 5.8 万円（昨年冬比 +0.5 万円）、妻が自由に使える金額は平均 5.0 万円（昨年冬比 +0.5 万円）。冬のボーナスが昨年より“少なくなる”との予想が減少したのを受けてなのか、自由に使える金額も増加傾向のようだ。

[グラフ 6 : 自由に使える金額はどれくらいですか] (単位 : 万円)



この調査に関するお問い合わせ先は
 西日本シティ銀行 広報文化部 堺・大岡 TEL 092-461-1869
 NCB リサーチ&コンサルティング 調査部 香椎 TEL 092-476-3051